

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:伊藤 宏樹 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	学校での行事や予定などの告知や学生への個人面談を行う。ビジネス能力検定3級合格へ向けて問題集を使い試験に向けて学習していく。またこの時間帯に現役のプロの声優にお越し頂き、業界の話や特別講義を行っていく。
到 達 目 標	ビジネス能力検定3級への合格。円滑な学校生活をおくっていくための情報共有の時間。また学生一人一人の進路相談や細かいケアなどを実践していく。進路や将来の事など共有の時間として活用する。
教 科 書	ビジネス能力検定ジョブパス公式テキスト3級
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 学校生活や業界のルールについて 3 学生面談 4 学生面談 5 ビジネス能力検定対策 6 ビジネス能力検定対策 7 ビジネス能力検定対策 8 ビジネス能力検定対策 9 ビジネス能力検定対策 10 ビジネス能力検定対策 11 ビジネス能力検定対策 12 ビジネス能力検定対策 13 ビジネス能力検定対策 14 進路相談・面談 15 進路相談・面談 前期総評 16 ビジネス能力検定対策 17 ビジネス能力検定対策 18 ビジネス能力検定対策 19 ビジネス能力検定対策 20 ビジネス能力検定対策 21 ビジネス能力検定対策 22 ビジネス能力検定対策 23 ビジネス能力検定対策 24 ビジネス能力検定対策 25 学内オーディション対策 26 学内オーディション対策 27 学内オーディション対策 28 進路相談・面談 29 進路相談・面談 30 外部ゲストを招き特別講座 後期総評
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	業界研究	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:青田 美穂 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	社会人としての立ち居振る舞いおよび、業界のプロ声優、または活躍中の卒業生を招き、声優業界や心構えなどを学ぶ。また学生が持つ業界や現場、演技などに関する質疑応答なども実施する。またプロの作品や過去の卒業公演なども鑑賞し、認識を深める。学園祭準備やコラボレーションの収録などにも充てていく。プロフィール用紙の作成などにも時間を当てる。
到 達 目 標	現役のプロから刺激を受け業界の認識を深めるとともに、授業に取り組む意識を高める場にもする。 また学校内部の収録や学園祭の準備などにも活用する。 2年次進路に必要なプロフィール用紙の作成をにも取り掛かる。
教 科 書	なし
	1 自己紹介・自己PRづくり① 2 自己紹介・自己PRづくり② 3 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え① 4 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え② 5 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え③ 6 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え④ 7 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え⑤ 8 プロ声優を招いて現場で求められる事・心構えを伺う① 9 プロ声優を招いて現場で求められる事・心構えを伺う② 10 企業コラボ ゲーム収録 11 卒業生による学校生活の過ごし方などトークを聞く① 12 卒業生による学校生活の過ごし方などトークを聞く② 13 ライブ活動へ向けての準備など① 14 ライブ活動へ向けての準備など② 15 ボイスサンプルの作り方① 前期課題内容評価 16 ボイスサンプルの作り方② 17 ボイスサンプルの作り方③ 18 ノベルス・シナリオ学科コラボレーション作品進行① 19 ノベルス・シナリオ学科コラボレーション作品進行② 20 アニメ学科コラボレーション作品進行① 21 アニメ学科コラボレーション作品進行② 22 DATフェスタへの準備① 23 DATフェスタへの準備② 24 DATフェスタへの準備③ 25 卒業公演への意識付け① 26 卒業公演への意識付け② 27 宣材写真への取り組み① 28 宣材写真への取り組み② 29 プロフィール用紙作成① 30 プロフィール用紙作成② 後期課題内容評価
成 績 評 価 方 法	自己PR内容、プロフィール用紙提出内容、授業への取り組み、ペーパーテスト内容を70% 出席率=30% 以上を加味して成績評価とする ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	フィジカルエクササイズ	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:糸賀 徹 1990年、ロックバンド「LesVIEW」のヴォーカルとしてメジャーデビュー。解散後は「ITOGA」として2度目のメジャーデビュー。その後、音楽系専門学校の講師や自身の音楽プロダクションにてアーティストのマネジメント、プロデュース、音楽制作、イベント制作を行っている。 担当:甲斐健児(後期)(株)レイズインにて作詞家・ヴォーカルトレーナーとして勤務。現在大学や専門学校でヴォーカルトレーニングの指導にあたる。		

■授業科目情報

授 業 内 容	「気力と体力のバランス」が備わっていることが、「仕事」における基本であることは自明の理である。これまで「体力」の部分に関しては、学生の自覚に任せてきたが、その必要性和具体的な向上の方法について、指導していくカリキュラムが「フィジカル」である。ストレッチと有酸素運動を中心に、心肺機能の向上と身体の可動域の拡張を促していく。
到 達 目 標	声の「仕事」において、それを支えていくのは思考だけではなく、身体も重要な要素であると、自覚することを大前提とし、最終的には自分自身で身体のメンテナンス、トレーニングが出来るようにすることを目標とする。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 フィジカルの必要性を理解する 2 ストレッチのやり方と効果 3 有酸素運動の基礎①～ローインパクトでリズムとシンクロ 4 有酸素運動の基礎②～ローインパクトで呼吸を一定にキープ 5 体幹トレーニング①～自分のバランス感覚を知ろう 6 体幹トレーニング②～関節と筋肉の働きを意識する 7 発声に作用する筋肉トレーニング①～腹筋 8 発声に作用する筋肉トレーニング②～背筋 9 体幹トレーニング①～体幹を鍛える筋肉トレーニング(前編) 10 体幹トレーニング②～体幹を鍛える筋肉トレーニング(後編) 11 有酸素運動の応用①～自分に合った動きを探すその1 12 有酸素運動の応用②～自分に合った動きを探すその2 13 パフォーマンスへの活かし方その1 14 パフォーマンスへの活かし方その2 15 前期試験～前期のカリキュラムの総復習 16 有酸素運動の応用①～様々なBPMに合わせて動いてみよう 17 有酸素運動の応用②～大きな動き、素早い動きのバリエーションを付ける 18 有酸素運動の応用③～20分ノンストップで動いてみよう 19 有酸素運動の応用④～サーキットトレーニングにトライその1 20 有酸素運動の応用⑤～サーキットトレーニングにトライその2 21 有酸素運動の応用⑥～サーキットトレーニングにトライその3 22 発声との融合①～これまでのトレーニングを発声に活かすには?その1 23 発声との融合②～これまでのトレーニングを発声に活かすには?その2 24 発声との融合③～これまでのトレーニングを発声に活かすには?その3 25 有酸素運動の応用⑥～自分に合った動きを探すその1 26 有酸素運動の応用⑦～自分に合った動きを探すその2 27 有酸素運動の応用⑧～自分に合った動きを探すその3 28 パフォーマンスへの活かし方その1 29 パフォーマンスへの活かし方その2 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	パントマイム	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:小島屋万助「小島屋万助劇場」主宰 アジアマイムクリエイション実行委員会を設立。代表としてアジアマイムフェスティバルを長野にて開催し、アジアのマイミストを国内に紹介しながら文化交流を深めた		

■授業科目情報

授 業 内 容	パントマイムの技術を習得する。エチュードなどを通して発想力、表現力を高める。
到 達 目 標	年2回の発表会を全員で作り上げる。
教 科 書	
年 間 授 業 計 画	1 前期オリエンテーション 2 パントマイムの基本メソッドであるドウクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める1。 3 パントマイムの基本メソッドであるドウクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める2。 4 パントマイムの基本メソッドであるドウクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める3。 5 パントマイムの代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟1。 6 パントマイムの代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟2。 7 パントマイムの代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟3。 8 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習1。 9 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習2。 10 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習3。 11 学内ステージにおいてオリジナルソロ作品を発表練習1。 12 学内ステージにおいてオリジナルソロ作品を発表練習2。 13 学内ステージにおいてオリジナルソロ作品を発表練習3。 14 学内ステージにおいてオリジナルソロ作品を発表練習4。 15 学内発表。 16 パントマイムの基本メソッドであるドウクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める4。 17 パントマイムの基本メソッドであるドウクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める5。 18 前期で習熟したものに加えより難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど)1。 19 前期で習熟したものに加えより難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど)2。 20 前期で習熟したものに加えより難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど)3。 21 習ったテクニックを使って小作品を作る1。 22 習ったテクニックを使って小作品を作る2。 23 習ったテクニックを使って小作品を作る3。 24 学内ステージにおいてオリジナルアンサンブル作品を発表練習1。 25 学内ステージにおいてオリジナルアンサンブル作品を発表練習2。 26 学内ステージにおいてオリジナルアンサンブル作品を発表練習3。 27 学内ステージにおいてオリジナルアンサンブル作品を発表練習4。 28 学内ステージにおいてオリジナルアンサンブル作品を発表練習5。 29 学内発表。 30 1年間のまとめ。
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	滑舌(アフレコ)	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 上山 真史 声優・俳優としてナレーション、ボイスオーバー、TVドラマ、CMに出演。現在は俳優ロールプレイヤーとして企業研修ロールプレイの相手役、フリースクールにて演劇教育の実践を行っている。		

■授業科目情報

授 業 内 容	【前期】言葉の構成要素である「母音」と「子音」について学ぶ。また五十音に対応した早口言葉を用いて「アクセント」を学び基礎的な滑舌を習得する。そして滑舌が良いということはどういうことを学ぶ。 【後期】朗読教材やナレーション教材を用い、台本の内容を語るために必要な要素である「リズム」「プレス」「プロミネンス」について学ぶ。そして初見原稿を用い初見力を身に付けるために必要な要素を学ぶ。
到 達 目 標	【前期】良い滑舌とはどういうことかを知り、現状の自分の滑舌がどのような状態かを知る。そのうえで良い滑舌を身に付ける。良い滑舌を聴覚的にも判断できるようになり、アクセントを即座に修正できるようになる。 【後期】良い滑舌を身に付けたうえで、台本の内容を相手に語る技術を身に付ける。
教 科 書	無し
年 間 授 業 計 画	1【オリエンテーション】自己紹介、授業を受けるにあたっての注意事項伝達。 2「構音について①」言葉を構成する母音と子音について知る。 3「構音について②」鼻濁音、無声音について知る。 4「滑舌の基礎訓練①」五十音表、朗読原稿を用いた滑舌の訓練を行う。 5「滑舌の基礎訓練②」早口言葉の原稿を用いた滑舌の訓練を行う。 6「アクセントについて①」アクセントの種類について知る。 7「アクセントについて②」アクセントの種類を踏まえて、原稿を用いた滑舌練習を行う。 8「収録①」これまでの授業を踏まえて、滑舌教材を用いた収録を行う。 9「収録②」前回の反省点を踏まえて、再度収録を行う。そして自分の滑舌の状態を知る。 10「個別練習①」滑舌について、個人の苦手とする部分に焦点を当て訓練を行う。 11「個別練習②」滑舌について、個人の苦手とする部分に焦点を当て訓練を行う。 12「グループ練習①」複数名のグループに分かれ、互いの滑舌状態について検討する。 13「グループ練習②」複数名のグループに分かれ、互いの滑舌状態について検討する。 14「収録③」ナレーション原稿を用い、収録を行う。 15「収録④」ナレーション原稿を用い、収録を行う。前期総評 16「復習」前期の復習を兼ねて、滑舌教材を用いて滑舌訓練を行う。 17「発声の仕組みについて」発声に関わる器官、呼吸について知る。 18「声の強弱について」声の強弱(プロミネンス)について知る。 19「声の速度について」声の速度(リズム)について知る。 20「声の間について」声の間(プレス)について知る。 21「朗読①」朗読教材を用いた訓練を行う。 22「朗読②」朗読教材を用いた訓練を行う。 23「収録⑤」朗読教材を用いて収録を行う。 24「収録⑥」前回の反省点を踏まえ、収録を行う。 25「感情表現について」台本を語る上で必要な感情表現について知る。 26「音声ドラマ①」音声ドラマ原稿を用い、セリフ掛け合いの訓練を行う。 27「音声ドラマ②」音声ドラマ原稿を用い、セリフ掛け合いの訓練を行う。 28「収録⑦」音声ドラマ原稿を用い、収録を行う。 29「台本の読み方について」初見原稿を読むにあたって、台本読解について知る。 30【期末テスト】「収録⑧」初見原稿を用いて収録を行う。総評
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	演技演習	授 業 方 法	実習
年 度	2025 年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:城内 美登理 芸能事務所 有限会社プロダクション・タンク所属。声優、ナレーター、俳優、司会業。複数の劇団で舞台経験を積みつつ専門学校や芸能プロダクションなどの養成機関にて演技指導を担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	発声練習など演技基礎を毎回指導。講師自身も一緒に身体を動かし見本となることで理解を促し不明点はその都度対応します。発表会・学園祭など人前で表現をする機会を多く設定し経験を積ませます。常に全ての生徒に声をかけ交流を持ち、一人一人の特性をみて授業を楽しめるように工夫します。
到 達 目 標	声優として必要な演技力の基本を実習や舞台発表を通し習得し、プロ現場で即戦力になるように指導します。現場の声など「今」業界で求められているものを伝えていき目標や興味を持たせます。他学科とのコラボレーションなど生徒が楽しみにしている授業も企画し、学校や授業の対しての楽しさを持続させます。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 発声基礎練習・柔軟体操・シアターゲーム 2 発声基礎練習・シアターゲーム・演劇台本読み方講座 3 発声基礎練習・シアターゲーム・演劇台本読み方講座(アクセント) 4 発声練習・シアターゲーム・本読み1(前期発表会用脚本) 5 発声練習・シアターゲーム・本読み2 6 本読み3・キャスティング ※以降、発声練習・シアターゲームは毎回実施 7 本読み4・舞台演劇用語講座 8 立ち稽古1 9 立ち稽古2・ヘアメイク講座 10 立ち稽古3・メイク合わせ 11 立ち稽古4・衣装合わせ 12 通し稽古1・音響合わせ 13 通し稽古2・照明合わせ 14 ゲネプロ 15 前期発表会 16 発表会反省会・本読み(文化祭用脚本)・立ち稽古1 17 立ち稽古2・衣装合わせ 18 立ち稽古3・殺陣ダンス稽古 19 通し稽古・音響照明合わせ 20 ゲネプロ 21 文化祭(舞台発表) 22 文化祭反省会・本読み1(後期発表会用脚本) 23 本読み2・キャスティング 24 立ち稽古1 25 立ち稽古2・衣装合わせ 26 通し稽古1・殺陣ダンス稽古 27 通し稽古2・歌唱稽古 28 通し稽古3・音響照明合わせ 29 ゲネプロ 30 後期発表会
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30点 ②発表会演技力(表現力・発想力・発声・滑舌など)＋平常点＝70点 ・上記項目を合計し、100点満点での成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学科名	声優学科	年次	1年
授業科目名	ダンス&ステージング	授業方法	実習
年度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開講学期	前期・後期	授業コマ数	前期 15コマ 後期 15コマ
単位数	4.0	週間授業数	前期 1回 後期 1回
担当教員・略歴	担当:高須 美里 ダンスチーム「ピンズファクトリー」に所属。定期公演や様々なイベント、パーティに出演。他に東京ディズニーランドのダンサーとしてニューイヤーイベントに10年出演。		

■授業科目情報

授業内容	ストレッチ・筋カトレニング・表現・ダンス
到達目標	体を使って表現をする事・魅せ方を学んでいく。協調性・作りあげていく楽しさ、大変さを経験していく。
教科書	なし
年間授業計画	1 自己紹介、オリエンテーション 2 アップの仕方 ストレッチ 3 アップの仕方 ストレッチ 4 筋カトレニング 5 筋カトレニング 6 リズムコンビネーション 7 リズムコンビネーション 8 リズムコンビネーション 9 基礎ステップ 10 基礎ステップ 11 コンビネーション 12 コンビネーション 13 試験へ向けての振付 14 試験へ向けての振付 15 前期テスト 16 基礎テクニック・バトマン 17 基礎テクニック・バトマン 18 基礎テクニック・ピルエット 19 基礎テクニック・ピルエット 20 コンビネーション1 21 コンビネーション2 22 コンビネーション3/小発表 23 コンビネーション4 24 コンビネーション5/小発表 25 後期試験へ向けての振付 26 後期試験へ向けての振付 27 後期試験へ向けての振付 28 試験へ向けての振付確認 29 試験へ向けての振付確認 30 後期テスト・総評
成績評価方法	①出席率＝30% ②試験発表内容＋小発表内容＋表現力や授業への取り組み＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	殺陣	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 梶 武志 ワタナベエンタテインメント、テアトルアカデミー、劇団ひまわり等でのアクション指導、演技指導のほか、商業演劇でのアクション指導も行う。自身もTV番組へ多数出演。		

■授業科目情報

授 業 内 容	現代殺陣・時代殺陣 声優としての心構えや肉体作り、演技に必要なスキルを実践していく。
到 達 目 標	全員が怪我無く、殺陣が出来るようにする。殺陣としての基本の型など身に着ける。
教 科 書	・無し
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 現代殺陣の基本その1 殴る、蹴る 3 現代殺陣の基本その2 移動 4 現代殺陣の基本その3 受ける 5 現代殺陣の基本の習得1 6 現代殺陣の基本の習得2 7 現代殺陣の基本習得3 8 息使いについて 9 体使いについて 10 ヒーローアクションの為の実践1 なし割、千鳥 11 ヒーローアクションの為の実践2 シャッター、ボディアップ 12 ヒーローアクションの為の実践3 芯とは 13 ヒーローアクション実践 多対1 14 ヒーローアクション実践 多対1 15 ヒーローアクション実践テスト 16 時代殺陣 オリエンテーション 17 基本の型の習得 18 基本の型の習得 19 基本の型の習得 20 移動稽古その1 基本 21 なし割・千鳥 22 シャッター・山形 23 移動稽古その2 対人 24 立ち廻り 2対1 25 立ち廻り 3対1 26 殺陣の演技 27 殺陣の演技 28 殺陣の演技 29 基本の型 テスト 30 殺陣実践
成 績 評 価 方 法	出席率＝30% 演技力・技術力・平常40% 期末テスト＝30% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	エチュード	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:勝沼紀義 俳優歴29年 声優歴24年 インプロ歴19年		

■授業科目情報

授 業 内 容	シアターゲーム、感情解放、インプロ等を経て演技者としての自己の確立を目指し、様々な表現手法を学ぶ。
到 達 目 標	声優として在るためにはまず俳優として在る必要があることを理解し、他者とのコミュニケーションスキルを発達させると共に自身の心理への探究を行い、演技における自由を獲得する。
教 科 書	無
年 間 授 業 計 画	1 イントロダクション 2 シアターゲーム 3 シアターゲーム 4 シアターゲーム 5 シアターゲーム 6 シアターゲーム 7 五感の記憶と感情解放 8 五感の記憶と感情解放 9 五感の記憶と感情解放 10 五感の記憶と感情解放 11 インプロ基礎エクササイズ 12 インプロ基礎エクササイズ 13 インプロ基礎エクササイズ 14 ステータス研究 15 ステータス研究 前期総評 16 空間描写とノットアドバンス 17 空間描写とノットアドバンス 18 アドバンス 19 アドバンス 20 キャラクター研究 21 キャラクター研究 22 エンダウメント 23 エンダウメント 24 エンダウメント 25 シーン研究 26 シーン研究 27 シーン研究 28 パフォーマンス研究 29 パフォーマンス研究 30 インプロ発表会 総評
成 績 評 価 方 法	出席点30%・技術点35%・受講姿勢点35% ・上記3つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	朗読	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:御園 行洋 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	朗読表現に関する基本的な発声・発音・表現技術の習得。 自分の長所・短所を見つめ、長所をいかに伸ばしていくか、アピールできるのかを考える。 想像力を活かし朗読表現で生き生きと世界感を表現出来るようになる。
到 達 目 標	朗読表現の基本となる、発声・呼吸の習得。 文章を間違えず、なるべくストレス無く声に出して読める技術の習得。 面接対応として、各個人の一歩の笑顔・良い発声での返答ができる様にしてい 事を到達目標とする。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介・授業の趣旨説明 腹式呼吸・発声の基礎説明と実践 2 現状の朗読表現確認 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践 3 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践① 4 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践② 5 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践③ 6 朗読基礎・基礎表現のまとめ 7 朗読原稿を使い、基本の読み方、日本語の確認① 8 朗読原稿を使い、基本の読み方、日本語の確認② 9 朗読原稿を使い、基本の読み方、日本語の確認③ 10 朗読・ナレーション原稿を使い、感性を生かした朗読実践① 11 朗読・ナレーション原稿を使い、感性を生かした朗読実践② 12 朗読・ナレーション原稿を使い、感性を生かした朗読実践③ 13 前期テスト教材練習① 14 前期テスト教材練習② 15 前期テスト実施(教材朗読 前期総合) 16 朗読表現における腹式呼吸・発声の復習と実践 17 現状の朗読表現確認 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践 18 腹式呼吸の基礎説明・実践 19 " 20 原稿を読み現在の自分の表現を確認する 21 呼吸基礎訓練と、表現中に基礎を取り入れる訓練 22 "(以降、生徒の到達度合いにより原稿を変更しながら授業を進める) 23 " 24 " 25 " 26 " 27 テスト原稿の選定と訓練 28 " 29 試験日 一律、同一原稿を朗読し、評価 30 後期授業の振り返りと、各自の今後の課題について説明
成 績 評 価 方 法	出席率30%・試験結果30%・個人の能力の成長度合い40%をそれぞれ評価し、その合計点 100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	ヴォイストレーニング	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 甲斐 健児 (株)レイズインにて作詞家、ヴォイストレーナーとして勤務。後に大学や専門学校にてヴォイストレーナーとして指導を担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	腹式、基本発声、発音(滑舌)など、基本的な表現方法を、各テーマごとに課題曲を提示し、その歌唱を通して、実践的に学んでいく。
到 達 目 標	発声および発音の基礎を、学術的にも技術的にも理解し、応用することで、自分自身の声を楽器としてとらえ、各々の個性を伸ばしながら自由に表現することを目標とする。
教 科 書	
年 間 授 業 計 画	1「基本理念」 発声の基礎・声の仕組み 2「身体の姿勢」 中心軸の気づき、丹田 3「呼吸法」 腹式呼吸の修得、効能を確認 4 リップロール、タンロールで息の流れを確認 5 間口音“あ”で、自分の声帯の震えを自覚する 6 現在の音域をチェックし、声帯の強度を計る 7 日本語の母音と発音の口の形を確認 8 表情筋の使い方、重要性に気づく 9 母音“お”で、朗々と流れていく息を確認し、ロングトーンを意識する 10 母音“え”で、声のベクトルをコントロールする 11 母音“う”で、動詞の表現を考えてみる 12 舌根を上げずに、のどを開くことを意識する 13 母音“い”で、英詞への対応を学ぶ 14「高音域」 自分の音域を広げるトレーニング 15 楽器としての声の個性に気づく 前期総評 16 リズムトレーニング ～4分～ 17 リズムトレーニング ～8分～ 18 リズムトレーニング ～16分～ 19 リズムトレーニング ～グルーヴとはなにか～ 20 8分の6拍子 ～ワルツ～ 21 子音、とくに英語の詞に注意してみる 22 のどで切る音に注意する 23 バラードで、詞やメロディーを自覚しながら確実に歌うことを意識する 24 母音、子音のバランス配分を意識する 25 息の吐きすぎによる発音の違いを確認する 26 普遍性を持つ楽曲を学び応用する 27 スキルアップのために① ビブラートの使い方と効能 28 スキルアップのために② ダイナミクスの付け方と効能 29 スキルアップのために③ 歌に表情をつけてみる 30 個性の再確認と歌唱発表 後期総評
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:伊藤 宏樹 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	学生に対して学校行事などのすり合わせ。個人面談、就職・進路など学校生活における学生のケア。 文化祭など学校行事の話し合いや準備。各授業の内容の補足。学内学外の案件対応、オーディションや収録。個人への技術指導や相談。
到 達 目 標	全体行事・予定の情報共有。進路関係や学生生活に対するケアを密にする。 散発的に発生する収各種様々な案件への対応。学内オーディションへの対応。学生の能力向上。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 個人面談・進路相談 3 個人面談・進路相談 4 個人面談・進路相談 5 学内オーディション対策 6 学内オーディション対策 7 学内オーディション対策 8 案件対応 9 案件対応 10 案件対応 11 学内コラボレーション対策 12 学内コラボレーション対策 13 学内コラボレーション練習 14 学内コラボレーション収録 15 学内コラボレーション収録 前期総評 16 声優ライブ準備 17 声優ライブ準備 18 声優ライブ準備 19 学内オーディション対策 20 学内オーディション対策 21 学内オーディション対策 22 学内オーディション対策 23 案件対応 24 案件対応 25 案件対応 26 進路面談 27 進路面談 28 2年間のまとめ 29 2年間のまとめ・テスト 30 現役のプロを招き特別講座 後期総評
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	声優学科	2年
授 業 科 目 名	業界研究	授 業 方 法	講義	
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間	
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ	後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回	後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:青田 美穂 専任教員			

■授業科目情報

授 業 内 容	2年次に入り、進路先候補のプロダクション・劇団等の関係者を学校に招き、その特色やワークショップを実施頂く事を中心に進めていく。11月には学内オーディションを開催し進路決定の機会を設ける。オーディション後には一人一人ヒヤリングを行い、希望プロダクションへ入れるように指導する。そのほか、学内コラボの収録にも充てる。
到 達 目 標	あらゆる特色を持ったプロダクションに話を伺い、自分の進路・未来の視野を広げてもらう。疑問があれば個別に質問などで解決し、業界の内情について知識を深めていく。11月には学内オーディション開催し、各自の進路を決める機会を設ける。その他、学内コラボレーションの収録に取り組み、質の良いコラボ作品を完成させる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	【4月～7月説明会企業一覧(予定)】12月頃 学内オーディション計画中 1 株式会社 スーパーエキセントリックシアター 2 C&Oプロダクション 3 株式会社 レオパードスティール 4 JTBネクストクリエイション 5 アクセント付属養成所シャイン 6 株式会社 プロダクション・エース 7 ぷろだくしょんバオバブ 8 ステイラック 9 株式会社 ゆーりんプロ 10 株式会社IAM 11 株式会社 アニモプロデュース 12 プロースト付属養成所チアーズ 13 株式会社 SUPRER EGG 14 有限会社 ケッケコーポレーション 15 アプトプロ付属養成所 および 前期総括 16 マウスプロモーション 17 株式会社 サンミュージックアカデミー 18 ZVISION 株式会社 19 株式会社 ケンユウオフィス トークバック 20 株式会社 プロダクション東京ドラマハウス 21 株式会社 パワーライズ 22 プロフィール用紙指導① 23 プロフィール用紙指導② 24 進路面接・相談① 25 進路面接・相談② 26 進路面接・相談③ 27 進路面接・相談④ 28 企業コラボレーション作品進行(アニメ学科) 29 企業コラボレーション作品進行(ノベルス学科) 30 企業コラボレーション作品進行(ゲーム学科) 後期総括
成 績 評 価 方 法	授業に対する取り組みやレポート提出状況、内容を加味し、出欠率なども加える。 出席30%+レポート課題など70%として評価 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	オーディション対策	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:清水 麻友美 国立音楽大学卒業後、文部科学省財団法人にて企業福利厚生担当イベント養成事業に従事。数々の企業、音楽イベントMc、Tv,ラジオ番組、CMナレーション、キャスター、他オーディobookナレーターとして活動。		

■授業科目情報

授 業 内 容	12月に行われる都内プロダクション関係者を招いての校内オーディション、また外部オーディションに向けて学生一人一人の個性を引き出し、自己PR,自己紹介、挨拶の仕方、お辞儀、笑顔の効用、話のまとめ方コミュニケーション能力アップエチュード他様々な観点から学んでいく
到 達 目 標	12月に行われる都内プロダクション関係者を招いての校内オーディション、また外部オーディション学生全員合格を目指す
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 年間計画、授業への心得 2 挨拶の効用と極意そして自己分析 姿勢の大切さ その1 3 互いを知ろう インタビュー形式でお互いの理解度を深める 4 自己分析シートを使い、現在の自分、なりたい未来への自分へのアプローチ その1 5 他己分析、君はこんなに素晴らしいシートを用い自分の良さの再発見へつなげる 6 自分の得意技発表 来るオーディションに向けて その1 7 なりたい自分へのアプローチ その2 雑誌を使っのカラーージュ 8 好感度高い声の出し方 声のメンタルチェックシートを活用 姿勢の大切さ その2 9 表情筋、身体の使い方 ストレッチを用い魅力あるを出しやすくするためのアプローチ 10 自己紹介と自己PRの違い いざ実践 11 ネガティブワード、ポジティブワードの使い方 ボキャブラリーアップ大作戦 12 ニックネームを作ろう 自分を端的に表現するためにグループディスカッション 13 笑顔の効用 メジカラ強化 大作戦 エチュードを用いて 14 得意技発表第2弾。表情、声の大きさ、何をどう伝えたいのか、見せ方、見られ方を意識 15 校内オーディション直前スペシャル 1・自己PR 前期総評 16 校内オーディション直前スペシャル 2・自己PR、朗読 17 校内オーディション直前スペシャル 3・自己PR、朗読、衣装合わせ 18 校内オーディション直前スペシャル 4・全通し 19 校内オーディション直前スペシャル 5・全通し、マイナーチェンジ モチベーションアップへ 20 校内オーディション後、反省会 今後へ向けて 21 体内時計を覚醒させよう 22 瞬間記憶力アップテスト 23 呼吸感を極めよう 24 ナレーション特講 宮沢賢治の世界 25 言葉の持つ心地よいリズムを体感しよう 詩を用いてアプローチ 26 今一度、君はこんなに素晴らしい シートを用いて、お互いの良さを再確認 27 自己分析 卒業を前に1年前の自分と今の自分を比較。今後の課題設定につなげる 28 発表 29 発表 30 総評
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学科名	声優学科	年次	声優学科	2年
授業科目名	ダンス&ステージング	授業方法	実習	
年度	2025年度	年間授業時間数	60時間	
開講学期	前期・後期	授業コマ数	前期 15コマ	後期 15コマ
単位数	4.0	週間授業数	前期 1回	後期 1回
担当教員・略歴	担当：高須 美里 ダンスチーム「ピンズファクトリー」に所属。定期公演や様々なイベント、パーティに出演。 他に東京ディズニーランドのダンサーとしてニューイヤーイベントに10年出演。			

■授業科目情報

授業内容	ストレッチ・筋力トレーニング・表現・ダンス
到達目標	体を使っての表現方法・魅せ方を各自で追求していく。1つのものを皆で協力して作り上げていく過程を身に着けていく。
教科書	なし
年間授業計画	1 アップの仕方 ストレッチ 2 アップの仕方 ストレッチ 3 アップの仕方 ストレッチ 4 筋力トレーニング 5 筋力トレーニング 6 中級レベルのテクニク 7 中級レベルのテクニク 8 中級レベルのテクニク 9 表現のためのコンビネーション 10 表現のためのコンビネーション/小発表 11 前期試験へ向けての振付 12 前期試験へ向けての振付 13 前期試験へ向けての振付 14 前期試験へ向けての振付確認 15 前期テスト 16 魅せるコンビネーション・スロー 17 魅せるコンビネーション・スロー/小発表 18 魅せるコンビネーション・リズム 19 魅せるコンビネーション・リズム/小発表 20 卒業公演へ向けてのダンスパート振付 21 卒業公演へ向けてのダンスパート振付 22 卒業公演へ向けてのダンスパート振付 23 卒業公演へ向けてのダンスパート振付 24 ダンスオーディション対策 25 ダンスオーディション対策 26 卒業公演へ向けてのダンスパート確認 27 卒業公演へ向けてのダンスパート確認 28 卒業公演へ向けてのダンスパート確認 29 後期テスト 30 最終まとめ
成績評価方法	①出席率＝30% ②試験発表内容＋小発表内容＋表現力や授業への取り組み＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	卒業公演	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:勝沼紀義 俳優歴29年 声優歴24年 インプロ歴19年		

■授業科目情報

授 業 内 容	2026年1月29日に南大塚ホールにて声優学科22期生卒業公演を行う。 またそれに向けての稽古・準備を進める。上演台本は「ゴジラ」(大橋泰彦作)。
到 達 目 標	生徒それぞれが自身の役割に責任を持って取り組み、チームワークを大切にして全員で一つの演劇作品を作り上げる。
教 科 書	「ゴジラ」
年 間 授 業 計 画	1 イン트로ダクション・スタッフワークの役割分担・仮キャスト決定・読み合わせ 2 読み合わせ 3 読み合わせ・本キャスト決定 4 作品背景研究 5 半立ち稽古 6 半立ち稽古 7 半立ち稽古 8 半立ち稽古 9 荒通し稽古 10 小返し稽古 11 小返し稽古 12 小返し稽古 13 小返し稽古 14 小返し稽古 15 荒通し稽古 前期総評 16 小返し稽古 17 小返し稽古 18 小返し稽古 19 小返し稽古 20 小返し稽古 21 通し稽古・スタッフ打ち合わせ 22 小返し稽古 23 小返し稽古 24 小返し稽古 25 通し稽古 26 通し稽古 27 通し稽古 28 通し稽古 29 ゲネプロ 30 卒業公演本番
成 績 評 価 方 法	出席点30%・及び作品成果、技術向上点70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	エチュード	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 小林梢 専門学校デジタルアーツ東京 声優学科卒業後、声優プロダクション アクセント所属の現役声優。TVアニメ、ドラマ、CMナレーションを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	演技の基本である感情表現を主軸に、台詞の掛け合いやコミュニケーションの取り方を学ぶ。相手とのコミュニケーションの中で自分の長所と短所を見つめ、より長所を伸ばしていく訓練を行う。
到 達 目 標	人前での所作や、表現時の集中力を養い、より精度の高い感情表現ができるようにする。演技に対しての向き合い方を学ぶ。面接の対応として、発表前に良い声で返事をしキビキビした動作で行動できるように日常からの意識づけをする事を到達目標とする。
教 科 書	
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介・授業の趣旨説明 集中力を養うエチュード① 2 舞台上での立ち方の基本、美しい姿勢と歩き方の鍛錬① 集中力を養うエチュード② 3 舞台上での立ち方の基本、美しい姿勢と歩き方の鍛錬② 集中力を養うエチュード③ 4 基礎鍛錬と登場人物の設定を決めた即興エチュード 5 基礎鍛錬と登場人物の設定を決めた即興エチュード 6 基礎鍛錬と登場人物の設定を決めた即興エチュード 7 基礎鍛錬と登場人物の設定を決めた即興エチュード 8 基礎鍛錬と人物設定をふまえたエチュード 9 基礎鍛錬と人物設定をふまえたエチュード 10 基礎鍛錬と人物設定をふまえたエチュード 11 基礎鍛錬と人物設定をふまえたエチュード 12 基礎鍛錬と台本の読み込み方と役の掘り下げ方の説明と実践① 13 基礎鍛錬と台本の読み込み方と役の掘り下げ方の説明と実践② 14 基礎鍛錬と実践を行った台本を用いてのエチュード 15 基礎鍛錬と実践を行った台本を用いてのエチュード 前期総評 16 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード 17 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード 18 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード 19 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード 20 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード 21 基礎鍛錬と使用した台本の内容をより掘り下げしていくエチュード 22 基礎鍛錬と即興エチュード① 23 基礎鍛錬と即興エチュード② 24 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード(新台本にて行う) 25 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード(新台本にて行う) 26 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード(新台本にて行う) 27 基礎鍛錬と台本に即した役の掘り下げ方の講義 28 基礎鍛錬と台本を使ったエチュード 29 発表 30 まとめと今後についての講義・感覚的に行うの即興エチュード
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	ヴォイストレーニング2	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:伊藤 宏樹 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	声優として必要な「発声、活舌、呼吸」を中心に、「表現、パフォーマンス、トーク等」への応用を行っていく。また都度撮影を行い振り返り、自分の長所を伸ばし短所の確認を行う。
到 達 目 標	声優という声で表現を行う仕事に対する様々なアプローチの仕方を学び、仕事につながる声と表現を作る。また、1人の社会人として必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。
教 科 書	
年間授業計画	1 オリエンテーション 2 発声基礎 3 活舌基礎 4 呼吸基礎 5 課題1基礎 6 課題1応用 7 課題1の総合的な復習 8 課題2基礎 9 課題2応用 10 課題2の総合的な復習 11 課題1.2を利用したパフォーマンス 12 課題1.2を利用したパフォーマンス 13 テスト課題練習 14 テスト課題練習 15 前期テスト 16 課題3基礎(グループワーク) 17 課題3応用(グループワーク) 18 課題3の総合的な復習 19 学園祭へ向け練習 20 課題4基礎(グループワーク) 21 課題4応用(グループワーク) 22 課題4の総合的な復習 23 オーディションへ向け魅せ方のワーク 24 オーディションへ向け魅せ方のワーク 25 課題5基礎(グループワーク) 26 課題5応用(グループワーク) 27 課題5の総合的な復習 28 テスト課題練習 29 テスト課題練習 30 後期テスト
成績評価方法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	映像表現	授 業 方 法	実習
年 度	2025年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 上山 真史 声優・俳優としてナレーション、ボイスオーバー、TVドラマ、CMに出演。現在は俳優ロールプレイヤーとして企業研修ロールプレイの相手役、フリースクールにて演劇教育の実践を行っている。 担当: 糸賀徹 シンコミュージックよりプロミュージシャンとしてメジャーデビュー。後に音楽プロダクションにてマネージメント・ヴォーカルレッスンを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	【前期】実技を通して、映像から見える自分自身を客観的に捉える。撮影に慣れるとともに、自分自身の魅力的な見え方を学ぶ。演技技法の解説・実践を通して演技に必要な要素を学ぶ。 【後期】「演者」としてエンタメに関わる者は、SNS上での発信の場を持つことが必須条件ようになっており、新人となれば尚更である。必要とされるツールの理解とトライアルをここで行う。スマホを使って、実際に撮影、編集などを行い、そこに「個性」をどう落とし込むかを試す
到 達 目 標	【前期】・自分自身が魅力的に映る技術を習得する。・カメラに映るということに慣れ、自然に表現する方法を習得する。・映像演技に必要な表現方法を知り、実践できる。 【後期】自己発信の意味を正しく理解する。 自身で撮影、編集、音声収録などを行い、WEBにアップロード出来るコンテンツを制作出来るようになる。
教 科 書	無し
	1【オリエンテーション】「声優・舞台・映像」それぞれの表現方法の違いと共通点を知る。 2「撮影された自分の見え方を知る①」カメラに映っている自分を客観的に確認する。 3「撮影された自分の見え方を知る②」自然な演技に必要なことを、「緊張」をテーマに検討。 4「自分を見せる①」自己紹介の様子を撮影(全身)。クラス内でレビュー、姿勢について検討。 5「自分を見せる②」自己紹介の様子を撮影(顔のアップ)。クラス内でレビュー、表情について検討。 6「自分の見せ方を知る」今回までの授業を踏まえ、自己紹介の様子を撮影。クラス内でレビュー。 7「行動について学ぶ」演技に必要な要素である「行動」をテーマに、座学と即興演技を行い検討。 8「役作りについて学ぶ」「役作り」をテーマに、座学を行い即興演技を撮影。クラス内でレビュー。 9「台本読解①(二人芝居)」台本を用いた読解方法を学び、芝居を撮影。 10「台本読解②(二人芝居)」台本を用いた芝居を撮影。レビュー。 11 これまでの授業を踏まえ、再度演技に必要な要素である「行動」、「役作り」について座学を行う。 12「三人芝居」台本を用いた演技を撮影。レビュー。 13「グループ演技①」台本を用いた芝居をカット割りありで撮影。 14「グループ演技②」台本を用いた芝居をカット割りありで撮影。 15「グループ演技③」台本を用いた芝居をレビュー 前期まとめ。エンタメとしての演技について検討する。 16 SNSとの付き合い方を学ぶ 17 セルフプロモーションの意味とキャリアへの影響力を理解する 18 自身の「セールスポイント」とは何か？ 19 デモ動画制作①～各自の自己紹介動画を作成 20 デモ動画制作②～各自の自己紹介動画を作成 21 デモ動画制作③～各自のナレーション動画を作成 22 デモ動画制作④～各自のナレーション動画を作成 23 デモ動画制作⑤～各自の歌唱動画を作成 24 デモ動画制作⑥～各自の歌唱動画を作成 25 デモ動画制作⑦～チームとして動画を作成(チームを編成し、協力して1つのコンテンツを制作) 26 デモ動画制作⑧～チームとして動画を作成(チームを編成し、協力して1つのコンテンツを制作) 27 研究と調査～各自が気になるコンテンツを紹介、その理由と魅力を解説する 28 締めくり動画制作①～これまでの学びを1つの形に落とし込む 29 締めくり動画制作②～これまでの学びを1つの形に落とし込む 30 後期試験～各自の「締めくり動画」を発表する
成 績 評 価 方 法	出席点: 30% 課題点: 70% ※期末試験は行わず、各課題ごとの出来栄点と授業への参加姿勢を評価し積算します。 ・上記項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学科名	声優学科	年次	2年
授業科目名	アフレコ演習	授業方法	実習
年度	2025年度	年間授業時間数	120時間
開講学期	前期・後期	授業コマ数	前期 30コマ 後期 30コマ
単位数	8.0	週間授業数	前期 2回 後期 2回
担当教員・略歴	担当: 原田 晃 プロダクションエース所属。声優・ナレーター。専門学校や養成所にて演技指導を担当。		

■授業科目情報

授業内容	スタジオ収録における基礎的なことの講義。 スタジオ内でのマナー、演技力の向上等、声優として必要なことを体験、学習してもらう。
到達目標	表現者として演技力を磨くことを第一に、社会人としての常識や対人関係の有り方など、業界及び社会で必要とされる人材になることを目標とする。声優として即戦力になれるよう外画アフレコ、アニメアフレコ等の実習を行う。表現力を身につけ、滑舌をよくする。
教科書	
年間授業計画	1 スタジオマナー学習（台本の持ち方、マイクの立ち方、マイクワーク等） 2 アニメアフレコ① 台本のチェックの仕方、専門用語を指導 3 アニメアフレコ② 台本をしっかり読み込み、作品を理解する。 4 アニメアフレコ③ 役作りを考える。 5 アニメアフレコ④ 尺合わせ等を意識する。 6 アニメアフレコ⑤ 会話の意識をする。距離感など。 7 アニメアフレコ⑥ 感情や動きを意識する。 8 外画アフレコ① アニメと外画の違いを認識する。台本を見る、画面を見る、原音を聞く。 9 外画アフレコ② 外画の映像の見方や台本のチェックの仕方を学ぶ。 10 外画アフレコ③ 役作り。アニメとは違い完成された映像に声をあてる。違いを理解する。 11 外画アフレコ④ 会話・感情の意識。 12 外画アフレコ⑤ 身体感覚を意識する。 13 外画アフレコ⑥ 呼吸を学習する。呼吸はアフレコの中の重要な要素。 14 外画アフレコ⑦ 空間を意識。画面にあてるのではなく、画面の中の空間や状況を意識する。 15 前期まとめ 実技テスト 16 アニメアフレコ① 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 17 アニメアフレコ② 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 18 アニメアフレコ③ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 19 アニメアフレコ④ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 20 アニメアフレコ⑤ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 21 アニメアフレコ⑥ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 22 アニメアフレコ⑦ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 23 外画アフレコ① 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 24 外画アフレコ② 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 25 外画アフレコ③ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 26 外画アフレコ④ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 27 外画アフレコ⑤ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 28 外画アフレコ⑥ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 29 外画アフレコ⑦ 前期と教材を替え、より実践的な演技指導 30 後期まとめ 実技テスト
成績評価方法	出席30%・アフレコなどの実技の点数+授業への姿勢70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	声優コース	2年
授 業 科 目 名	ヴォーカルレッスン	授 業 方 法	実習	
年 度	2025年度	年 間 授 業 時 間 数	120時間	
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ	後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回	後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:系賀 徹 1990年、ロックバンド「LesVIEW」のヴォーカルとしてメジャーデビュー。解散後はソロアーティスト「ITOGA」として2度目のメジャーデビュー。その後、音楽系専門学校のヴォーカル講師、自身の音楽プロダクションにてアーティストのマネジメント、プロデュース、音楽制作、イベント制作を行っている。			

■授業科目情報

授 業 内 容	近年、急速に増えた「歌える声優」の需要に応えるべく、基本の発声からステージングまでを1年かけてレクチャーして行く。 自身の「声」や「パフォーマンス」が「商品」であるという認識への自覚を促すことで、単なるスキルの習得にならないように、生徒との対話も重視しつつ、進行して行く。
到 達 目 標	自分の声やキャラクターを理解した上で選曲し、パフォーマンスが出来ることを最低限の目標とする。 卒業後の「仕事」を意識し、良い意味で「好き／やりたい」だけの価値観からの脱却もこの授業の到達目標の一つとして設定したい。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 デイリートレーニングのやり方と効果① 2 デイリートレーニングのやり方と効果② 3 ヴォイストレーニングの基礎①～表情筋と発声の関連性を学ぶ 4 ヴォイストレーニングの基礎②～身体の柔軟性と発声の関連性を学ぶ 5 ヴォイストレーニングの基礎③～発声に必要な筋肉について学ぶ 6 なぜ、大きな声が必要なのか？ 7 響く声、響かない声の「差」とは何か？ 8 「表現力」と「歌唱力」の違いとは何か？ 9 自分の歌を「客観的」にチェックする方法を覚える 10 ステージング①～マイクの特性と使い方 11 ステージング②～モニタリングについて 12 ステージング③～オケと声の「フィット感」を知ろう 13 ステージング④～自分のフィールドを把握する 14 ステージング⑤～MCの必要性の理解とステージ構成について 15 前期試験～15分以内でミニライブを自身でプロデュースする(2曲+MC) 16 ヴォイストレーニングの基礎④～「良い声」とは何か？ 17 ヴォイストレーニングの基礎⑤～自分の声の特性と「曲」とのマッチングについて 18 好きな曲を歌ってみよう！～クラスメートの感想をリサーチ 19 声に合っている曲を探そう！～クラスメートの感想をリサーチ 20 オーディション対策①～審査員はココを見ている 21 オーディション対策②～歌唱も含めた自己アピールについて 22 エンタテインメントとは？ 23 ライブを作ってみよう①～ライブとは何か？ 24 ライブを作ってみよう②～セットリストの持つ意味を理解して構成する 25 ライブを作ってみよう③お客様を飽きさせないために 26 「仕事」としてエンタメに関わるために 27 ライブパフォーマンス①～ポイント(見せ場)を作る 28 ライブパフォーマンス②～価値のあるパフォーマンスとは？ 29 ライブパフォーマンス③～自分に合ったパフォーマンスを構築してみよう 30 後期試験～20分以内でミニライブを自身でプロデュースする(自由構成)
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②試験内容＋ライブへの取り組み＋ステージング力＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	